

基準1 理念・目的

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取り組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取り組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容 ○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の関連性				①（〇〇委員会）〇〇〇〇〇〇〇〇。 ②（□□学科会議）□□□□□□□□。	①〇〇〇議事録（WebMagic管理） ②□□□報告書（Teams管理）	・〇〇〇 ・□□□
② 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示 ○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表	○オープンキャンパスの学科説明の内容は、大学の理念、目的、学部の目的を示し、3つのポリシーをわかりやすく説明することで、高校生に興味関心を示すように尽力した。○高大連携事業として、1つの高校へ出張授業を行っている。 ○高校内ガイダンスや、模擬授業の依頼を受け9回以上出張し高校生に学部の魅力を伝えている。 ○ホームページの更新は、10回以上行い、オープンキャンパスの様子や、学外でのボランティア活動など、大学の理念や目的に合わせた活動について紹介している。○2022年4月20日（水）に3年生が戴灯式を行った。これは、大学の理念の中にある「建学の精神」に関連したセレモニーである。	木村	○コロナ禍ではあったが、リモートなどで、模擬授業を行うなど工夫を重ね、学生募集につながるような取り組みを行った。しかし、年々、入学予定者の減少がみられている。東海地区の看護学部の増加と少子化によって入学定員の確保が、今年以降さらに厳しくなっていくことが予想される。本学看護学科の認知度の向上につながるよう一層努力を行っていく必要がある。			
③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定 ・認証評価の結果等を踏まえた中・長期の計画等の策定						

基準2 内部質保証

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取り組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取り組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示しているか。	○下記の要件を備えた内部質保証のための全学的な方針及び手続の設定とその明示 ・内部質保証に関する大学の基本的な考え方 ・内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織（全学内部質保証推進組織）の権限と役割、当該組織と内部質保証に関わる学部・研究科その他の組織との役割分担 ・教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針（PDCAサイクルの運用プロセスなど）				①（〇〇委員会）〇〇〇〇〇〇〇〇。 ②（□□学科会議）□□□□□□□□。	①〇〇〇議事録（WebMagic管理） ②□□□報告書（Teams管理）	・〇〇〇 ・□□□
② 内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備しているか。	○全学内部質保証推進組織・学内体制の整備 ○全学内部質保証推進組織のメンバー構成						
③ 方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	○学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び学生の受け入れ方針の策定のための全学としての基本的な考え方の設定 ○方針及び手続に従った内部質保証活動の実施 ○全学内部質保証推進組織による学部・研究科その他の組織における教育のPDCAサイクルを機能させる取り組み ○学部・研究科その他の組織における点検・評価の定期的な実施 ○学部・研究科その他の組織における点検・評価結果に基づく改善・向上の計画的な実施 ○行政機関、認証評価機関等からの指摘事項（設置計画履行状況等調査等）に対する適切な対応 ○点検・評価における客観性、妥当性の確保						
④ 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。	○教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等の公表 ○公表する情報の正確性、信頼性 ○公表する情報の適切な更新	本年度は、2回の研修会を企画した。第1回は、2022年8月に医療統計を専門とする講師を招き、「生物統計の基礎知識の講義・模擬データによる演習」をテーマに実施した。看護学科全員教員の参加があり、実施後のアンケートの結果から教育や研究に活かされる内容であり高い評価を得た。第2回は、年度末に看護学科研究費による助成研究の中間報告会の開催を予定している。	足立	今後の課題は、第1回開催の生物統計の基礎知識的な基本的な内容であったため、参加者からアドバンス的な内容の研修要望があった。			
⑤ 内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○全学的なPDCAサイクル等の適切性、有効性の定期的な点検・評価 ○点検・評価における適切な根拠（資料、情報）の使用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	○学科内組織を系統化するために、各委員会での活動内容を可視化する取り組みを行っている。学科会議において各委員会等の報告を工夫し全教員が活動内容を共有しやすいようにしている。 ○看護学科のPDCAサイクルを適切に行うために、領域長会議を行い、各領域の課題を整理し、問題点の焦点化を行う。	木村	○後期に活動報告書を作成し、可視化できているか評価を行う。資料は2023年3月ごろに提出・国家試験対策委員会・教務委員会・実習委員会・入試広報委員会・実習センター・学生支援委員会・特別支援委員会・キャリア支援委員会・宗教委員会・大学IR委員会・地域連携委員会・国際交流委員会・シティーカレッジ・交流会委員・戴灯式委員会・FD委員会			

基準3 教育研究組織

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取り組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取り組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ○大学の理念・目的と学部（学科又は課程）構成及び研究科（研究科又は専攻）構成との適合性 ○大学の理念・目的と附置研究所、センター等の組織の適合性 ○教職課程等を置く場合における全学的な実施組織の適切性 ○教育研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮 				<ul style="list-style-type: none"> ①（〇〇委員会）〇〇〇〇〇〇〇〇。 ②（□□学科会議）□□□□□□□□。 	<ul style="list-style-type: none"> ①〇〇〇議事録（WebMagic管理） ②□□□報告書（Teams管理） 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇〇 ・□□□
② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な根拠（資料、情報）に基づく教育研究組織の構成の定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上 	○10の研究組織を立ち上げ、全教員が研究に所属して、現在研究中である。	木村	○研究成果については、2023年3月に中間発表会を予定している。			

基準4 教育課程・学習成果

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定（授与する学位ごと）及び公表	○保護者に対して保護者懇談会において説明を行った。6月4日（土）保護者懇談学科別説明会で学科長より看護学科のディプロマ・ポリシーについて説明。必要な単位取得と必修の条件を満たし、看護職にふさわしい実践力と資質を身につけた者に学位（看護学学士）を授与することを示した。事前に説明資料を送付し、当日に詳しく説明をすることで理解を得られることができた。	学生支援委員 篠田		①（〇〇委員会）〇〇〇〇〇〇〇〇。 ②（□□学科会議）□□□□□□□□。	①〇〇〇議事録（WebMagic管理） ②□□□報告書（Teams管理）	・〇〇〇 ・□□□
② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定（授与する学位ごと）及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性	○保護者に対して保護者懇談会において説明を行った。上記①と同様、6月4日（土）学科別説明会で看護学科教員によりカリキュラム・ポリシーを説明。教務委員長より教育内容（単位取得とカリキュラム内容）について、教育方法の実習については実習委員長より具体的な内容について示した。この資料も事前に送付し、当日詳しい説明をすることで理解を得られることができた。	学生支援委員 篠田	当日の説明会の時間内で質疑応答の時間が作れず、事後対応となった。説明会のプログラム計画時に時間配分を考慮する必要がある。			
③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置 ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系的への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ（必修、選択等） ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定 ・初年次教育、高大接続への配慮（【学士】【学専】） ・教養教育と専門教育の適切な配置（【学士】） ・実践的・応用的な能力、職業倫理の涵養への配慮、専門の職業を取り巻く状況への配慮、教養教育・基礎的な教育・職業に係る教育科目等の適切な配置（基礎科目（一般・基礎科目）、職業専門科目、展開科目、総合科目）等（【学専】） ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博】）	○2022年度生の新カリキュラムが開始となった。新カリキュラムの運用開始となり、1年次のカリキュラムの進行状況について、説明してください。 教養教育・基礎的な教育・職業に係る教育科目等の適切な配置（基礎科目（一般・基礎科目）として死生学、社会福祉学、リハビリテーション概論を1年次に開講し修了した。理学療法や福祉学科との合同教育によって、職業倫理の涵養への配慮、専門の職業を取り巻く状況への配慮、保健・医療・福祉チームの一員として基礎的な教養を履修できている。また専門科目は、2年次以降の開講のため1年次は基礎的な教養を培うことができた。	教務委員：尾藤				
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置 ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等） ・シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法（教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等） ・学習の進捗と学生の理解度の確認 ・授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 ・授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 ・臨地実務実習、その他必要な授業形態、方法の導入と実施（【学専】） ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数	○精神領域：コロナ感染により、病院実習が中止になり、学内実習となった。実習先の看護部長と実習病棟に指導者から実習目標と学習内容に関連した臨床講義をteamsで4回行っていただいた。講義の中では、主体的に学生からの質問に返答し、双方向からのやりとりによって臨地実習の内容を深めることができた。臨地実習中止の補完を行った。 母性領域：母性臨床看護Ⅱにおける「看護過程の演習」では、演習を進める過程の中で記録の内容と進捗状況を確認し、学生へフィードバックすることで理解を深めることができた。母性看護学実習では、感染予防のため実施できない実習内容に関して、また臨地実習が休止したときの対応として、学内演習およびオンラインを利用したカンファレンス等で補完した。 領域・成人：COVID-19感染拡大状況を加味しながら、原則、学内・遠隔実習ではなく、臨地実習の方針で各施設と打ち合わせを行った。実習前後2週間を含めた厳重な体調管理を行い、やむを得ない学生を除き、全く臨地実習に行けなかった学生はいなかった。 在宅：カリキュラム改正に伴う新たな科目では、授業内容に関するワークシートを作成し、課題をもとに個人ワークやグループワークを通して、より自身の暮らしに看護を引き寄せられるよう、また学生の主体的な授業への参加を促すよう	精神:木村 母性：篠田 成人：柴・青木 在宅：内藤 老年:平澤・兼松 統合OSCE：小松 保健師OSCE：高田	老年：看護過程の科目で動画教材を作成したが学生にどのような学習効果があったのか、学生側の理解度も合わせて評価していく必要がある。 公衆衛生看護：地域診断等のアセスメントでは、情報の解釈が論理性を欠いた結論であることが多々みられる。経験値の少なさが価値観の偏りに影響しているように感じることもあるため、グループディスカッション等を活用し多様な意見や考えを提示し、受け入れられるような学習環境が必要である。			

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取り組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取り組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位等の適切な認定 ・実践的な能力を修得している者に対する単位の適切な認定（【学専】） ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり <p>○学位授与を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 	<p>○2018年度生（旧カリ）には、旧カリキュラムに基づく評価表を使用し適切に単位認定を実施した。2019年度から2021年度生（新カリ）、2022年度（新新カリ）に対しては、学年ごと進級判定を実施している。再試験不合格者への対応として特別再試験実施時期が一部異なっていたが、2022年度は年度末の一定期間に限定とし、厳格性、公平性、公正性を担保した。また特別再試験実施の内規について、2022年度（新新カリ）に対応とし、全学年適応できるよう公正に実施できるように改正した。</p>	教務：尾藤				
⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）</p> <p>○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発</p> <p>＜学習成果の測定方法例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>○学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わり</p>	<p>○2022年10月27日（木）4年生が卒業研究計画書の発表会を行った。</p> <p>○学習成果の測定方法として、2022年度看護研究（ゼミナール）評価基準にルーブリック評価表を作成し、評価を行った。</p>	木村	<p>○2019年度生から、新科目「看護研究方法」の評価を実施する。評価内容や、評価方法について、適切な設定であったか評価する必要がある。</p>			

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取り組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取り組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上						
⑧ 教育課程連携協議会を設置し、適切に機能させているか。（学士課程（専門職大学及び専門職学科）／大学院の専門職学位課程）	○メンバー構成の適切性（【学専】【院専】） ○教育課程の編成及びその改善における意見の活用（【学専】【院専】）						

基準5 学生の受入れ

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取り組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取り組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	○学科内会議において検討を行い、オープンキャンパスにおいて説明を行う。カリキュラムや、アドミッションポリシーについては高校生と保護者に説明した。	木村		①（〇〇委員会）〇〇〇〇〇〇〇〇。 ②（□□学科会議）□□□□□□□□。	①〇〇〇議事録（WebMagic管理） ②□□□報告書（Teams管理）	・〇〇〇 ・□□□
② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ・オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施 ・オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の顧慮等）	○学科内会議において検討を行った。昨年、今年と聴覚障害の学生の受け入れについて検討を行った。 ○オンラインによる面接を行った。	木村	○聾学校との情報提供の時期が、入学が決定してからのものになり、問題点の共有や、受け入れ準備のタイミングが遅れた。情報共有の時期について検討が必要である。 ○オンラインによる面接は、通信環境に問題がなく終わることができた。			
③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ・入学定員に対する入学者数比率（【学士】【学専】） ・編入入学定員に対する編入学生数比率（【学士】【学専】） ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	○受験者が減少している。模擬授業や、学内見学者などの対応は可能な限り行っているが入学定員の充足には至っていない。入学定員確保のための高等学校の成績の評定平均を下げるというような対策はとらず、国家試験を受験するため、学力重視の学生受け入れとしたい。	木村	○看護大学受験者の大学選択の基準は、看護師国家試験合格率高さであることが明らかとなっているので国家試験合格者を前年度よりあげたい。国家試験対策委員会により、計画的に対策がすすめられているが、評価は、3月となる。			
④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上						

基準6 教員・教員組織

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取り組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取り組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	○大学として求める教員像の設定 ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ○各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）の適切な明示	看護は実践科学とされ看護教員は看護専門領域の一定の臨床経験を有し、学問体系として実践から理論を確立すること、研究能力が必要であることから教員は全員修士を有する者としている。さらに高度実践能力の学問基盤を整備するため博士学位保有者を数名置く。教員の研究活動支援として学科研究費を10Gに分け教育研究業績に繋げている。	宮田学科長	教育研究活動は、大部分が実習指導や成績不振学生の指導に追われ、本来的な研究活動に割く時間が著しく削られている。全体の科研費申請や研究業績を増やすのが困難な教員があり教員の研究能力格差の個人差も大きい。学科共通のOSCEを実施し、実習前技術到達度をあげ実習に臨んでいる。が、臨地実習停止領域も多く、卒業時到達目標への不到達が懸念される。	①（〇〇委員会）〇〇〇〇〇〇〇〇。 ②（□□学科会議）□□□□□□□□。	①〇〇〇議事録（WebMagic管理） ②□□□報告書（Teams管理）	・〇〇〇 ・□□□
② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	○大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数 ○適切な教員組織編制のための措置 ・教員組織の編成に関する方針と教員組織の整合性 ・各学位課程の目的に即した教員配置 ・国際性、男女比 ・実務家教員の適正な配置（【学専】【院専】）（研究能力を併せ有する実務家教員の適正な配置【学専】） ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成への配慮 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授又は准教授）の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ○教養教育の運営体制	看護学科は看護師養成課程および保健師養成課程を配置している。保健師課程は学生20名で専任教員3名（1名学科長兼任）を配している。看護師課程は8領域に8名の教授、7名の准教授、8名の講師を配し偏りのない組織である。中でも特定機能病院看護部長および助産20年経験者を実務家教員として2名配置している。教員の学位は修士18名、博士6名で、助手2名は修士課程に在籍する。年齢構成は30代1名、40代6名、50代10名、60代6名、70代1名と平均年齢はやや高いがバランスの取れた構成である。研究科は人間福祉学研究科であり、教育・スポーツ健康科学・福祉・理学・看護と多岐の研究分野に渡る。看護学科は有資格者1名の配置であり、今後複数の配置が望まれる。教員は修士および博士課程の授業科目を担当している。教養科目として死生学・生化学・心理学・福祉包括論・人間関係論など専門基礎に繋げる科目は適正配置されている。	宮田学科長	教育研究組織としては年齢構成・実務経験・教育経験ともバランス良く配置されているが、教員の異動が多く定着した教育が行われにくい。教育の大半が実習指導に追われ、教員の経歴や研究を生かした教育が実現されていない。研究科組織に看護教員が増えることが望ましい。			
③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	○教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施						
④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	○ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施 ○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用	○本年度のFDは、2回の研修会を企画した。第1回は、2022年8月に医療統計を専門とする講師を招き、「生物統計の基礎知識の講義・模擬データによる演習」をテーマに実施した。看護学科全員の参加があり、実施後のアンケートの結果から教育や研究に活かされる内容であり高い評価を得た。第2回は、年度末に看護学科研究費による助成研究の中間報告会の開催を予定している。○ティーチングポートフォリオの開始となった。	足立	今後の課題は、第1回開催の生物統計の基礎知識的な基本的な内容であったため、参加者からアドバンス的な内容の研修要望があった。			
⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	学科内の委員会活動によって教育の質的保障の確保を目指している。学科内委員会は教務・実習・国試対策の他FD・戴灯式・交流会等の学科行事遂行の委員会を組織している	宮田学科長	学科内委員会は大学組織決定した後、2年毎に交代し、誰もが委員会を経験し、学科教育のあり方を考えてもらう機会とする。委員会は年度毎にPDCAで実施、委員会記録を見える化した。			

基準7 学生支援

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取り組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取り組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。	○大学の理念・目的、入学者の傾向等を踏まえた学生支援に関する大学としての方針の適切な明示	○看護学科は、健康上の問題等で、特別支援の対象となる学生が多いため、学科会議等で、学生支援委員、特別支援委員から、常時、学生に関する情報共有し、支援方針について検討を行った。	木村	○学生の情報が、どのような学習困難につながるかとどこまで精査できていないことがあるので情報共有の方法を見直す必要がある。	①（○○委員会）○○○○○○○○。 ②（□□学科会議）□□□□□□□□。	①○○○議事録（WebMagic管理） ②□□□報告書（Teams管理）	・○○○ ・□□□
② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	○学生支援体制の適切な整備 ○学生の修学に関する適切な支援の実施 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・自宅等個々の場所で学習する学生からの相談対応、その他学習支援 ・オンライン教育を行う場合における学生の通信環境への配慮（通信環境確保のための支援、授業動画の再視聴機会の確保など） ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者及び休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 ・奨学金その他の経済的支援の整備 ・授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○学生の生活に関する適切な支援の実施 ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備 ・学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮	○特別支援が必要な学生についての支援が必要となった。学生からの合理的配慮申請に基づく対応について、特別支援委員会にて審議し、当該学生と特別配慮についての合意書を交わす仕組みづくりを行った。その仕組みに則して合理的配慮への取り組みを実施した。具体的には、聴覚障害学生の看護演習及びグループワークへの手話通訳士の導入、聴覚障害学生のロッジャー使用、PCによる講義の字幕表示、自筆困難学生への病院実習でのPC利用などの対応を行なった。 ○コロナ感染や、病気（身体・精神等）の理由で学習や、実習時間の不足がある場合は、補講や、追実習を実施し、学習支援を行った。 ○4年留年者の対応については、選任のゼミ担当者によって、不足単位の履修管理、卒業要件の基準充足のための指導を行っている。 ○各学年の休学者、留年者の把握については、各学年のゼミ担任によって行われる。全学年の休学者、留年者について教務委員会でとりまとめ、学科会議で、全教員に周知する。学生が、進級が可能なように学修支援計画をたて実施している。 ○退学希望者については、ゼミ担当者および、学年留年者に関しては、進級認定会議で審議し決定する。	○特別支援委員長：田中 ○成人：林 ○老年：兼松 ○在宅：内藤	○合理的配慮の申請から合意・実施までの手順が十分でなく、改良すべき点が残っている。今後は申請手続きの簡素化、タイムリーな合理的配慮への対応など手続・周知方法等に改良すべき点が残されている。○臨地実習でハラスメントを受けた学生に対する指導・支援方法について、実習要項に明記されていなかったため、今後、臨地実習指導者との連携も含めた対策を明記していく必要がある。			
③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上						

基準8 教育研究等環境

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取り組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取り組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。	○大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた社会貢献・社会連携に関する方針の適切な明示	○社会連携・社会貢献に関しては、方針や実績に関する活動報告を、ホームページで公開している。	地域連携：樋田		① (〇〇委員会) 〇〇〇〇〇〇〇〇。 ② (□□学科会議) □□□□□□□□。	①〇〇〇議事録（WebMagic管理） ②□□□報告書（Teams管理）	・〇〇〇 ・□□□
② 教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備しているか。	○施設、設備等の整備及び管理 ・ネットワーク環境や情報通信技術（ICT）等機器、備品等の整備、情報セキュリティの確保 ・施設、設備等の維持及び管理、安全及び衛生の確保 ・バリアフリーへの対応や利用者の快適性に配慮したキャンパス環境整備 ・学生の自主的な学習を促進するための環境整備 ○教職員及び学生の情報倫理の確立に関する取り組み	○2020年度より入学した全学生を対象にPCが貸与されており、office365、Moodle、Zoomなど充実した学習管理システム（LMS:Learning Management System）が整備されている。したがって、授業資料の配布やレポート提出においてもICTを活用することができた。また新型コロナウイルスの影響による遠隔授業および遠隔実習にも柔軟に対応できた。 ○国家試験対策においては、医学書院の「MES:Medical e-shelf」を用いた学習を実施している。 ○聴覚障害の学生への対応としては、対象学生と相談し、難聴の状況に合わせてた対応を実施している。例として、補聴器用補助具（Roger）といったワイヤレスマイクや、授業スライドにおける字幕設定により、聴覚障害の学生へのサポートを継続している。 ○情報セキュリティに関しては、情報漏洩を防止するため、機密書類はパスワードを用い、専用のハードディスクやクラウドシステムを活用して管理している。	ICT：野田	○現状においての学習環境は十分に整っているが、ネットワーク環境や情報通信技術（ICT）は日進月歩で進化するため、学習者・教育者が適切に対応できるよう、ICTに関する学習の機会を継続する必要がある。 ○機密情報の漏洩をしないよう、継続したリスク管理を行なっていく必要がある。			
③ 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。	○図書資料の整備と図書利用環境の整備 ・図書、学術雑誌、電子情報等の学術情報資料の整備 ・国立情報学研究所が提供する学術コンテンツや他図書館とのネットワークの整備 ・学術情報へのアクセスに関する対応 ・学生の学習に配慮した図書館利用環境（座席数、開館時間等）の整備 ○図書館、学術情報サービスを提供するための専門的な知識を有する者の配置	○4年生の看護研究において文献検索等で、学術情報サービスを利用した。 ○1年生のゼミ活動の中で、図書館職員の図書館活用説明、サポートを受け、ビブリオバトルを行った。学年選抜、大学選抜の行事に加わった。	木村：木下				
④ 教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	○研究活動を促進させるための条件の整備 ・大学としての研究に対する基本的な考えの明示 ・研究費の適切な支給 ・外部資金獲得のための支援 ・研究室の整備、研究時間の確保、研究専念期間の保障等 ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の教育研究活動を支援する体制 ・オンライン教育を実施する教員からの相談対応、その他技術的な支援体制	○科学研究費助成事業 基盤研究C2件継続中である。	木村				
⑤ 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。	○研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組み ・規程の整備 ・教員及び学生における研究倫理確立のための機会等の提供（コンプライアンス教育及び研究倫理教育の定期的な実施等） ・研究倫理に関する学内審査機関の整備	○日本学術振興会の研究倫理e-ラーニングを教員全員受講してから研究に取り組んでいる。	木村				
⑥ 教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上						

基準9 社会連携・社会貢献

A：点検・評価項目	B：評価の視点	2022年度の取り組み	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。	○大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた社会貢献・社会連携に関する方針の適切な明示	○社会連携・社会貢献に関しては、方針や実績に関しての活動報告を、ホームページで公開している。	地域連携：樋田		① (〇〇委員会) 〇〇〇〇〇〇〇〇。 ② (□□学科会議) □□□□□□□□。	①〇〇〇議事録（WebMagic管理） ②□□□報告書（Teams管理）	・〇〇〇 ・□□□
② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	○学外組織との適切な連携体制 ○社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進 ○地域交流、国際交流事業への参加	○中濃厚生病院との連携協力に関する協定を10月25日の締結を実施した。具体的活動に向けて準備を進めている。 ○ 2021年度に続いて、2022年度各務原市委託事業であるフレイル予防講習会に、9月10日（土）および12月9日（金）に老年教員にて「オーラルフレイル予防」に関する講習を実施した。 ○2021年度に続いて、DWAT研修の推進を特論1の授業で行い2年生43名が参加した。また、3年生の継続研修も10名以上が参加した。 ○ 学生による地域貢献議場では、関市内の地区において、手洗いを中心として感染予防対策に関する啓発活動を実施した。 ○ 高大連携においても、済美高校衛生看護科の学生に対して、本学での講義を9月にリモートに	地域連携：樋田	行政との連携は出来ているが、企業連携は、経験していないため、商品開発など業務連携できるような推進活動が必要である。			
③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	○連携団体との報告会を毎年、開催しており、2023年1月20日（金）に実施予定である。コロナ禍にて、関係団体にはリモートにて参加いただき、意見交流を実施している。○学生による地域貢献事業の成果報告会も、2023年3月に予定されている。	地域連携：樋田				